

光切断装置（例）の紹介

作成（株） オプセル

埼玉県川口市上青木 3-12-18 サイテック内 506 号室

電話：048-263-5220 FAX：048-263-5521

Mail: : komata@opcell.co.jp

<http://www.opcell.co.jp>

(1) デモ機の全体構成

①テレセンレーザ投光ユニット（ユニット販売、特注製作可能）

LD波長 : 650nm

レーザライン長 : 18mm

レーザライン幅 : 20 μ m

WD : 55mm

②テレセンレーザ受光ユニット（ユニット販売、特注製作可能）

光学視野 : 18mm

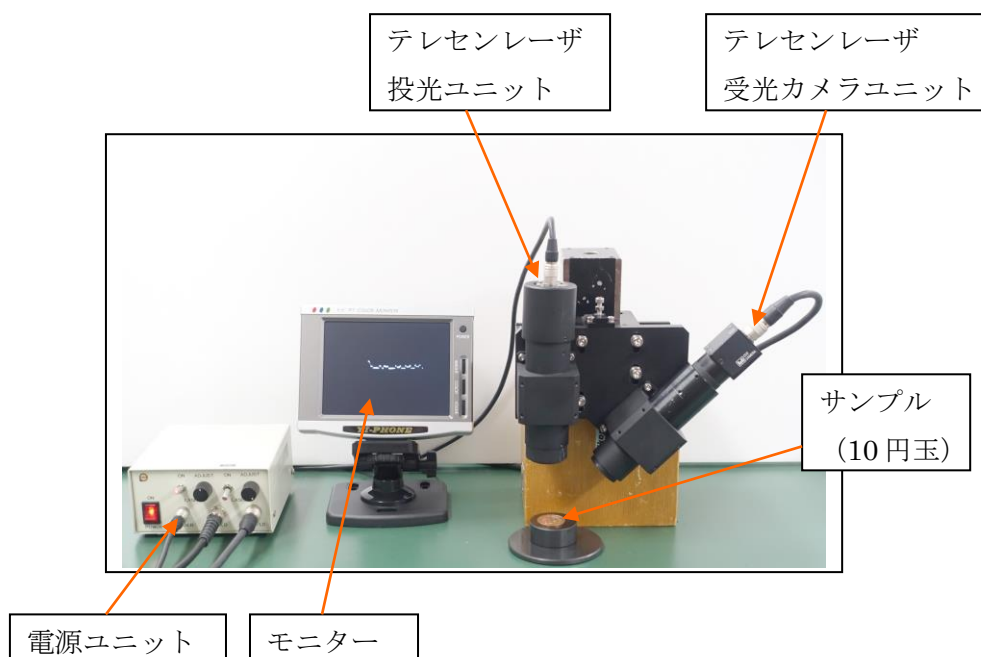
光学倍率 : 縦方向×7.5倍、横方向×1倍

カメラユニット : Cマウント、1/3インチ（変更可能）

③モニター部

④その他

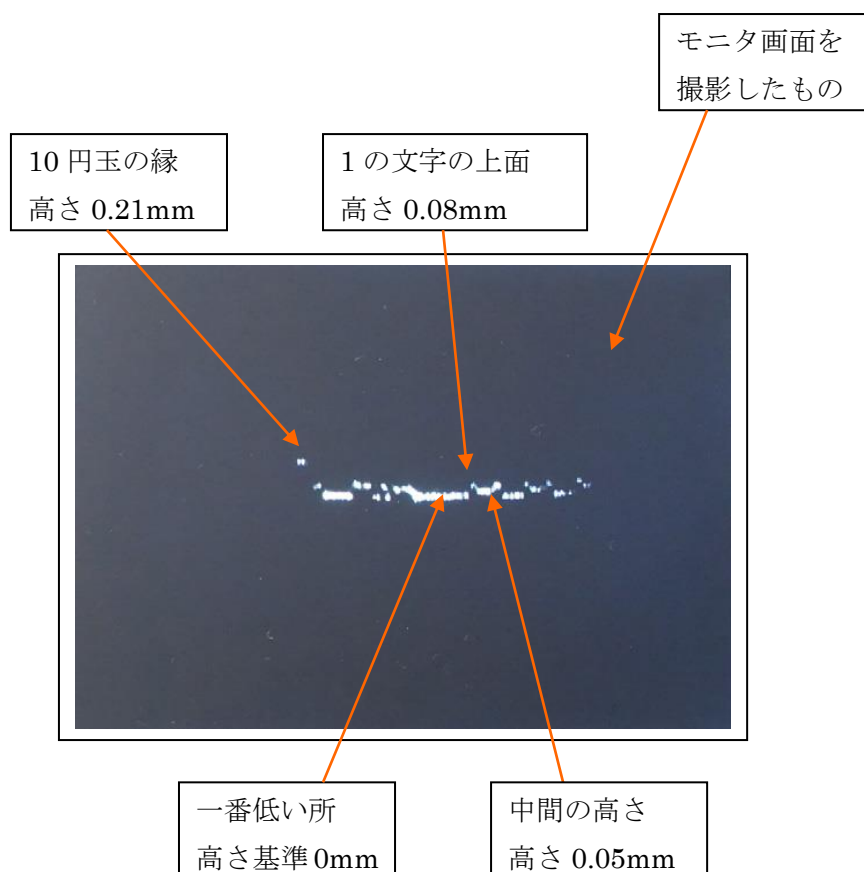
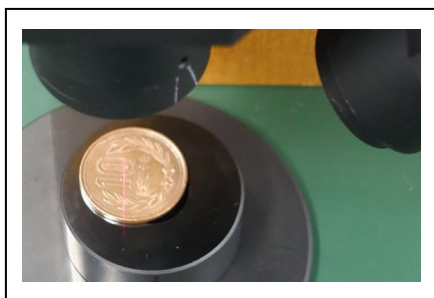
USBカメラによる画像のパソコン入力、処理ソフト制作可能



(2) サンプルの高さとサンプル画像について

デモ機のカメラはデジタルカメラではないので、画像処理などが必要な場合にはデジタルカメラの使用を推奨します。今回のカメラは1/3インチですが、4M、12Mなどのデジタルカメラをご希望の場合は、受光光学系のレンズを交換することが必要ですが、レンズの設計、製作、検査などを行うことが可能です。

今回のサンプル (10円玉)



(3) 装置組み立ての注意事項

各接続コードは1種類のコネクタしか接続できませんので、形が合ったコネクタに接続してください。

(電源部配置)

レーザをオンするときは左側のスイッチを上にあげてください。レーザの光量はボリュームを回して調整してください。右に回すと光量が強くなります。右側のレーザスイッチは、今回は使えませんので下にしておいてください。



(モニターの配線と起動)

下のモニター後ろ側の写真を見て接続してください。黄色のコネクタのみ使用します。モニターの電源 ON は、モニター前側右上の **POWER** スイッチを押してください。



(カメラのゲイン調整)

カメラ後ろ側の黄色いボリュームを右に回すと、ゲインが高くなり反射の弱いものでも計測できるようになります。レーザ光量調整と合わせて使用してください。

